

- 1 派遣期日 平成28年8月29日(月)
- 2 研修先 学校名(会場名) 筑波大学附属小学校
所在地 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp>
- 3 研修内容

第8回くどうなおこワールドにどっぷりつかろう授業研究会

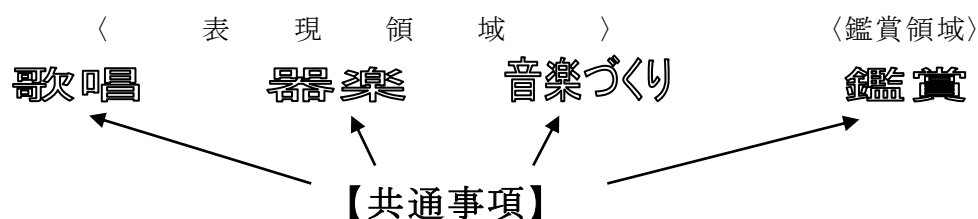
(1) はじめに

この研究会は2008年に他県でのくどう先生の研究会に参加していた筑波大学附属小学校の白石先生と桂先生の熱い思いで始まりました。今年で第8回目最終回です。第3回目から図工や音楽の授業も加わり、教科を越えて「のはらうた」での授業を提案いただきました。子どもたちの気付きや考えを十分認め、子どもたちのつぶやきと発言から「何だろう。」「どうしてだろう。」と主題にせまっていきました。また、どの授業も、焦点化、視覚化、共有化を意識して授業されていることがわかり、ユニバーサルデザインの視点からも勉強することができました。この研究会に参加でき大変勉強になりました。

(2) 音楽科の学習の今

① 音楽科の内容

音楽科の指導内容は、表現領域(歌唱・器楽・音楽づくり)と鑑賞領域(鑑賞)から成っています。



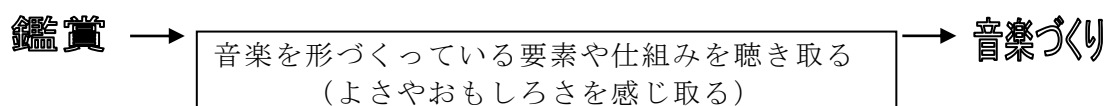
この図を見ると、各学習内容を支えているのが共通事項です。共通事項とは、現行の学習指導要領で新設されたもので、どの学習にも共通して学ぶべき音楽の要素や仕組みのことです。

〔共通事項〕第5学年、第6学年

- (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素
- (イ) 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み

前からの音楽科のイメージは、ある曲を歌ったり演奏したりすることが中心となり、しかも上手に演奏できるようにすることが一義的であるかのようなものでした。しかし、教師の誘導的な発問や一方的な指示による演奏の上達には子どもの学びの姿は認められません。

また、思考力、判断力、表現力を基盤とする「生きる力」の育成を目指すとき、音楽科において「音楽づくり」の分野は非常に大切な分野と言えます。何もない真っ白なキャンバスに絵を描くような活動、それが音楽づくりです。思考力、判断力、表現力は音楽科の授業で育てられると考えられます。



音楽を形づくっている要素や仕組みは何か、それらを整理したのが〔共通事項〕です。

(3) 授業について

「まっすぐについて」という題材での音楽づくりです。工藤先生の「まっすぐについて」の詩で遊べる・浸れるそんな授業でした。授業の初めは詩（言葉）で音楽を作るのに必要なウオーミングアップでした。最初に「ありがとうの花」をグループで振り付けして踊りました。当日つくったグループですぐ話し合い振り付けをしたようです。次に「おはよう」という言葉で音程・音の長さなどを子どもたちが自由に考えて一人ずつ表現していました。友だちのつくった「おはよう」をみんなでくり返したり、合いの手をいれたりして遊ぶなど、言葉がもつ音のおもしろさを堪能していました。いよいよ「まっすぐについて」の詩での音楽づくりです。子どもたちは「まっすぐについて」の詩に初めて出会います。反復している「まっすぐ」という言葉に目をつけて「どんなまっすぐか」発問し、子どもたちの想像が膨らんでいきました。フリーハンドで黒板に線を描き「どんな線？」と聞くと、「ふにゃふにゃ・ぼこぼこ」と言い、定規で線を描き「どんな線？」と聞くと、「きれい・ピーン・美しい・正確・引っ張られているような」という発言が飛び出しました。音をつくるときにその言葉の持つイメージをしっかりと持つことが大切だと感じました。最初のまっすぐよりイメージが確かになり、子どもたち各々が「まっすぐ」に音をつけて楽しみました。「まっすぐ」の言葉の上にある副詞をつけて、みんなでかけ合いをしながらのはらうたに音がついていきました。副詞のイメージも「まっすぐ」の言葉にとって大切であることもわかりました。「きっちり」という副詞のときには「まっすぐ」の言葉も速さやリズムが「きっちり」に合うように表現するグループが多かったです。今まで学習してきたことをふり返って、まねっこや追いかけっこ、重ねをするなど表現方法を高倉先生が確認しました。最後は4人グループになり、「まっすぐ」というフレーズとその他のフレーズで役割を決め、「まっすぐ」に音をつけていました。そのとき速さやリズム、反復を考えると子どもたち自らがグループで話し合っていました。5分程度で「のはらうた」の音楽づくりができました。

授業の後の座談会では授業者の高倉先生が、音楽づくりでは音楽遊びをたくさん経験することが大切だとおっしゃっていました。その中でも、身近な言葉で遊ぶと発想や想像をふくらませることができるということをおっしゃっていました。



4 感想

音楽づくりを通して子どもたちに思考力、判断力、表現力を基盤とする「生きる力」の育成をされていることに感銘しました。そしてなにより、子どもたち一人一人の表情が生き生きしていました。音楽を楽しんでいる顔です。小学校学習指導要領解説の音楽科の目標の中で、音楽活動の基礎的な能力を培うこととあります。日々の音楽の授業でも歌唱・器楽の基本的な技術に走ってしまいます。しかし、「どう歌ったらこんなきれいな声が出せるのだろう。」「どう演奏したらいい音が出るのだろう。」と子どもたちが興味をもつように、子どもたちが本来もっている、音楽を聴いたり表現したりする能力に働きかけるための仕掛けを用意することが必要であると思いました。そこから子どもたちが「こうしたい。」「こうすればいいのではないか。」という思いや意図をもって音楽活動ができるようにすることが、音楽の基礎的な能力を培い「生きる力」の育成になるのだと思います。

9月には自主研修で、高倉先生の「音楽づくりと鑑賞のワークショップ」に参加してきました。参加している私たちが楽しくなる授業の提案で、子どもたちとやってみたいと思いました。

これからの音楽科で、共通事項をおさえながら、音楽づくりと鑑賞のよりよい指導を勉強し、研修を深め子どもたちとともに楽しい音楽をつくっていきたいと思います。